

編 修 趣 意 書

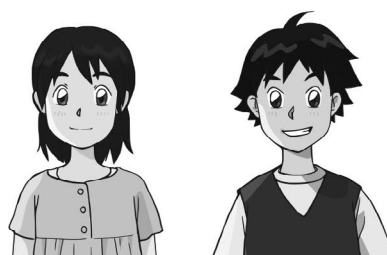
(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-115	中学校	外国語	英語	第3学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
61 啓林館	英語 906	BLUE SKY English Course 3		

1

編修の基本方針

今後、期待される社会の姿(Society5.0)の実現に向けて、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決したり、膨大な情報を見極めながら複雑な状況変化の中で、目的に応じて考えを再構築したりするなど、持続可能な社会の担い手となるための資質・能力を培う観点から、以下の3点を基本方針として位置づけました。



1 生徒が主体的に関わりながら学びを進める

- (1)Unitの最初に全体の目標を、PartにはそのPartの目標を明示することで、生徒にも学習到達目標がはっきりわかり、何ができるようになるかを意識しながら、主体的に学習を進めることができるようにする。
- (2)ペアワークやグループワークなどを通して、主体的・対話的な学習が進められるようにする。

2 コミュニケーションを図るための基礎的な資質・能力を身に付ける

- (1)Unitを構成するPartには、取り扱う語彙や表現などを明示し、身に付けるべき基礎的な学習内容が一目でわかるようにする。
- (2)言語材料への慣れ親しみ、知識・技能の習熟、活用・定着という学習過程を踏みながら基礎的な資質・能力を身に付けられるよう紙面構成を工夫する。

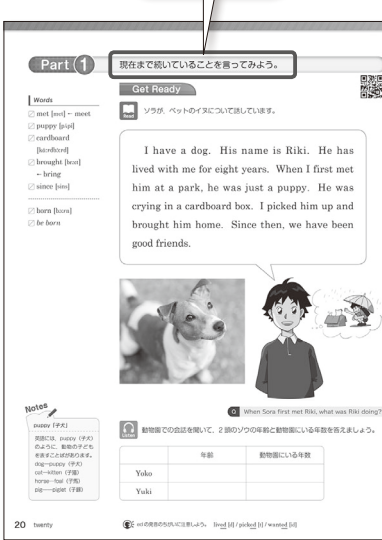
3 知識・技能を活用して、思考力・判断力・表現力を育成する

- (1)生徒の知的な好奇心に応える題材を多く扱い、生徒の思考力・判断力・表現力を養えるようにする。
- (2)コミュニケーションの目的・状況・場面を意識して4技能5領域を活用し、生徒自身が課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断し、行動する力が養えるようにする。

1 生徒が主体的に関わりながら学びを進める

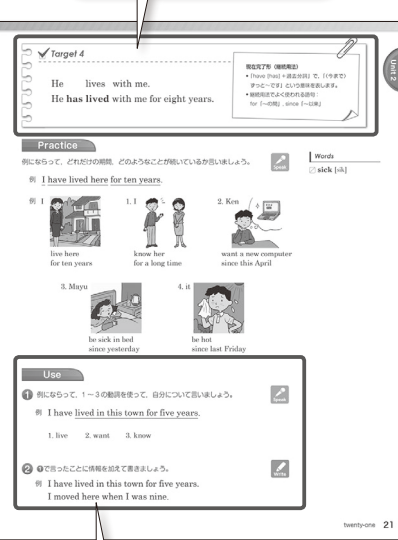
- 学習の進めやすさを考慮して、各Partは見開きで構成しています。
- UnitとPartの最初には学習到達目標(Unitの目標、Partの目標)を明示し、生徒自身が何ができるようになるかを意識しながら、自律的に学習を進められるようにしました。
- 各Partで重要なキーセンテンスをTargetとして示し、身に付ける言語材料を明確にしました。
- ペアワークやグループワークなどを通して、主体的・対話的な学習が進められるようにしました。

Partの目標



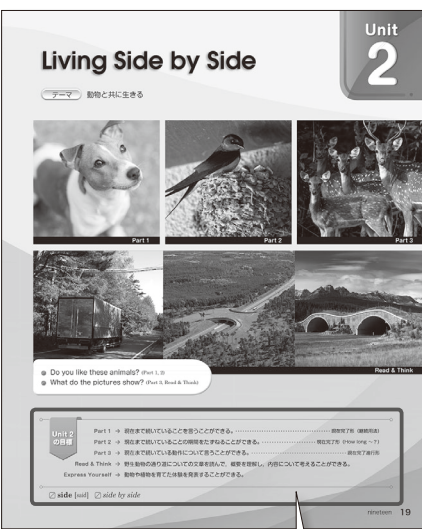
Unit 2 p.20-21

Partのキーセンテンス



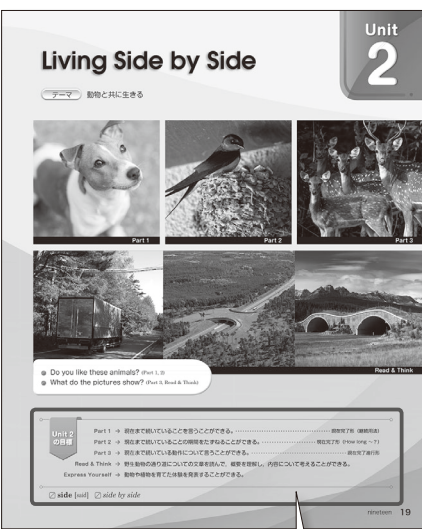
Unit 2 p.21

Unit 2 p.19



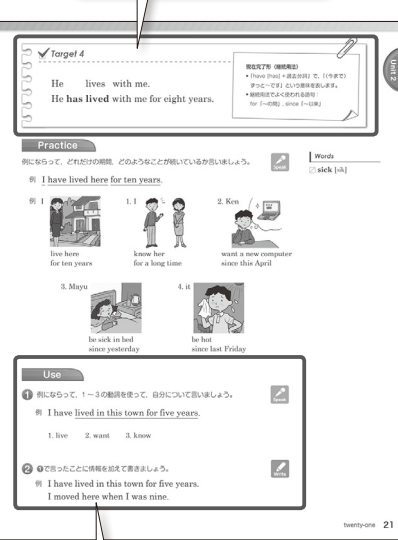
Unit 2 p.19

Unit全体の目標



Unit 2 p.19

ペアワーク、グループワーク
などで、自分のことを表現する

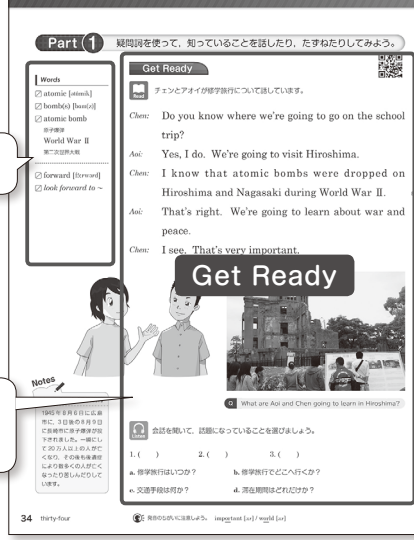


Unit 2 p.21

2 コミュニケーションを図るための基礎的な資質・能力を身に付ける

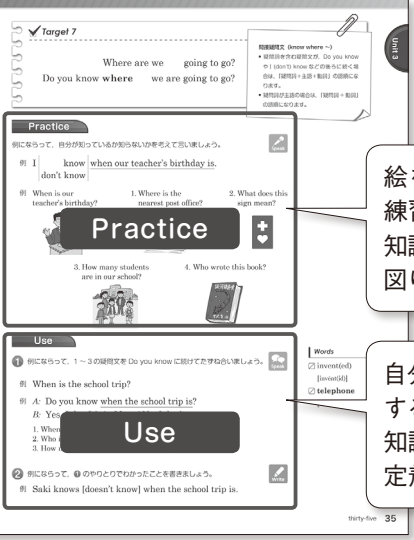
- 各PartはGet Ready, Practice, Useで構成され、言語材料への慣れ親しみ、知識・技能の習熟、活用・定着という細かい学習過程を踏んで基礎的な知識・技能が身に付くよう配慮しました。
- 新出語を欄外にWordsとして示し、学習の参考にできるようにしました。特に、中学校までで身に付けておきたいCEFR-JのA1レベルの語彙は太字で示しました。

新出語



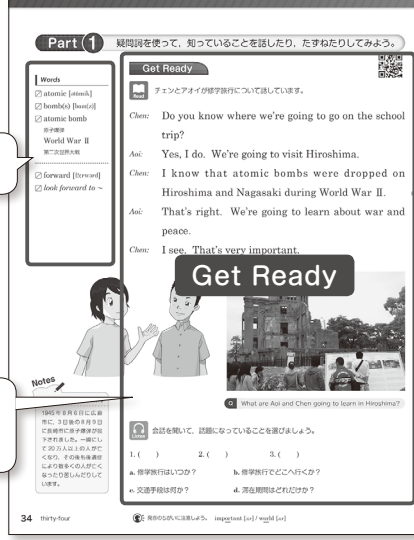
Unit 3 p.34-35

絵を使って
練習することにより、
知識・技能の習熟を
図ります。



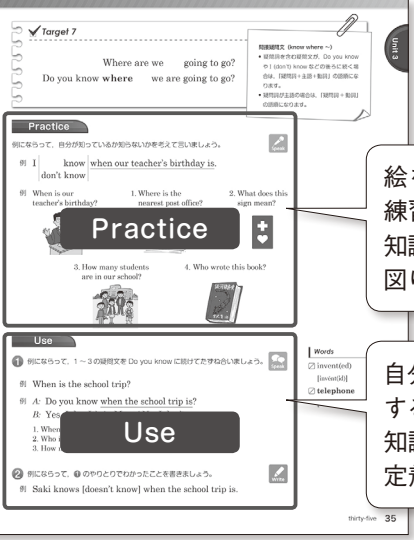
Unit 3 p.35

音声に
慣れ親しみます。



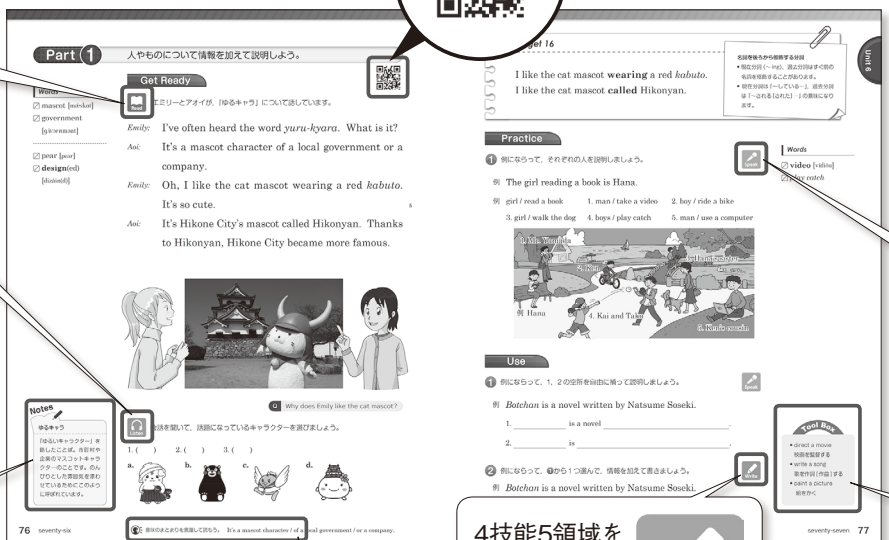
Unit 3 p.34-35

自分のことを表現
することにより、
知識・技能の活用・
定着を図ります。



Unit 3 p.35

- 「聞くこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「読むこと」「書くこと」の4技能5領域を示すマーク(  )を問題の横に表示し、身に付けるべき技能を意識しながら学習が進められるようにしました。
- 題材に関する付加情報などを紹介するコラムを**Notes**として適宜設定し、さらに発展した学びへの興味づけができるようにしました。
- ICTの活用が有効な箇所には**QRコード**を掲載し、学習の助けになる教材(音声など)を活用しながら臨場感を持って学習が進められるようにしました。
- 音読の**ポイント**をページ下欄に掲載し、話すときはもちろん、聞き取るときの参考にもなるように配慮しました。
- 表現活動の際に必要な語彙を**Tool Box**にまとめ、生徒が自分の言葉で表現する際の手助けとなるようにしました。
- 他教科で学んだ題材や生活用品など生徒に馴染みのある題材を取り上げ、生徒が親しみを持って、基礎的・基本的な語彙や表現を身に付けられるように工夫しました。



4技能5領域を示すマーク (Read)

4技能5領域を示すマーク (Listen)

Notes

音読のポイント

4技能5領域を示すマーク (Write)

4技能5領域を示すマーク (Speak)

Tool Box

(Unit 6 p.76-77)

- Unit末の**More Information**では、Unitで学んだ内容の補足情報を読むことで、理解を深めることができます。
- Unit2, 4, 6末に設定した**Targetのまとめ**では、複数のUnitで学んだ表現を振り返り、理解の定着を図ります。

▼ More Information



More Information ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザイン(Universal Design)とは、「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢、性別、国籍、障がいの有無などに関係なく、すべての人にとって使いやすいデザインのことであります。

ユニバーサルデザインの7つの原則

1. だれでも使える、知覚されること(可視性)
2. 柔軟に利用できること(柔軟性)
3. 使い方が簡単になること(簡便性)
4. 使う人に必要な情報の提供に役立つこと(わかりやすさ)
5. 健康と安全に配慮すること(健康性)
6. 少ない力で簡単に、楽に使えること(軽便性)
7. 使うときに健康被害が起きないこと(リスクの回避)

ユニバーサルデザインの例

センサー式靴口

手を触れず靴口だけで靴がはかれる靴口は、手洗いや消毒のある人や、力の弱い高齢者や子どもにも利用できます。また、感染症に感染しないので衛生的です。

大きな料金投入口

自動販売機などの料金投入口には、小銭をまとめて入れられる大きなものがあります。小銭を1枚ずつ入れる必要がなく、だれにも利用しやすくなっています。

ピクトグラム(絵文字)

多言語をわたりやすい場で使うピクトグラムは、公共施設や交通機関などのさまざまな場所で見られます。小さな子どもから、日本語のわからない外国人まで、一目で内容を理解することが出来ます。

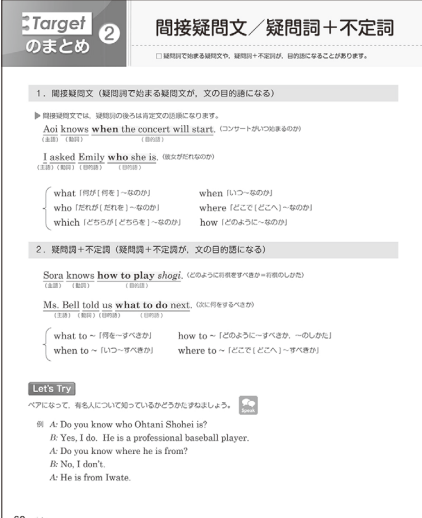
シャンプー台の突起

多くのシャンプーの容器には突起がついています。これにより、湯ただけでコンディショナーなどの泡盛と区別することが出来ます。目の不自由な人だけでなく、目をつぶって髪を洗っているときにも役立つと思います。

59

(Unit 4 p.59)

▼ Targetのまとめ



Targetのまとめ 間接疑問文／疑問詞＋不定詞

□ 疑問詞で始める疑問文や、疑問詞＋不定詞が、目的語になることがあります。

1. 間接疑問文 (疑問詞で始まる疑問文が、文の目的語になる)

▶ 間接疑問文では、疑問詞の後ろは肯定文の文法になります。

Aoi knows **when the concert will start**. (コンサートが始まるの?)
(主語) (動詞) (目的語)

I asked Emily **who she is**. (彼女が何なのか?)
(主語) (動詞) (目的語)

what (何が) 何々 一々の物 when (いつ) 何々の時
who (だれが) だれ々 一々の物 where (どこで) (どこへ) 一々の物
which (どちらが) (どちらを) 一々の物 how (どのように) 一々の物

2. 疑問詞＋不定詞 (疑問詞＋不定詞が、文の目的語になる)

Sora knows **how to play shogi**. (どのように将棋をやるか＝目的語のしる?)
(主語) (動詞) (目的語)

Ms. Bell told us **what to do next**. (次に何をすべきか?)
(主語) (動詞) (目的語)

what to ~ (何をすべきか) how to ~ (どのようにすべきか、一々のしかた)
when to ~ (いつ) 一々の物 where to ~ (どこで) (どこへ) 一々の物

Let's Try

ペアになって、有名な人について知っているかどうかを尋ねましょう。

A: Do you know who Ohtani Shouhei is?
B: Yes, I do. He is a professional baseball player.
A: Do you know where he is from?
B: No, I don't.
A: He is from Iwate.

60

(p.60)

3 知識・技能を活用して、思考力・判断力・表現力を育成する

- 場面・状況に応じて即興で対応する場面を多く取り入れ、生徒の**思考力・判断力・表現力**を養えるようにしました。
- Unit末の**Read & Think**では、少し長めの英文を読み、内容を大まかにつかんだり、詳しく読んだりする力を養えるようにしました。
- Unit末の**Let's Talk**では、身近な場面の中で既習の表現を活用して必要な情報を伝え合うなどのコミュニケーションを通して表現力を養えるようにしました。
- Unit3, 6末に設定した**Let's Listen**では、身近な場面から必要な情報を聞き取り、適切に判断し活用できる力を養えるようにしました。
- 巻末の**Let's Read**では、長めの読み物を読み、内容について生徒が自分で思考し、判断できるようにしました。

▼ Read & Think

Read & Think

Happa Business

Kamikatsu is a small town in Tokushima. About half of the people are over 65 years old. Still, it is one of the liveliest small towns in Japan.

People in Kamikatsu have lived by farming, but it is difficult work for elderly people. So, Yoshiaki Tomoji was looking for a new business that they could join. One day he went to a Japanese restaurant in Osaka. A woman sitting at a nearby table said, "Wow! What a pretty leaf! I'll take this home." She was holding a tiny maple leaf. An idea flashed in Yoshiaki's mind.

In 1986, Yoshiaki started a new business dealing with *happa* or leaves. Japanese restaurants need a lot of leaves to decorate their dishes. The elderly in Kamikatsu grow, pick, and sell leaves to Japanese restaurants. The plants are so small and light that the elderly can easily deal with them.

Read & Think

1. What is the main idea of the text? ()

(1) Kamikatsu is a small town in Tokushima. (2) People in Kamikatsu have lived by farming. (3) Yoshiaki Tomoji was looking for a new business. (4) The elderly in Kamikatsu grow, pick, and sell leaves to Japanese restaurants.

2. What is the main idea of the text? ()

(1) Kamikatsu is a small town in Tokushima. (2) People in Kamikatsu have lived by farming. (3) Yoshiaki Tomoji was looking for a new business. (4) The elderly in Kamikatsu grow, pick, and sell leaves to Japanese restaurants.

3. Do you want to live in Kamikatsu? Why do you think so?

(Unit 6 p.82-83)

▼ Let's Talk

Let's Talk

Take the Karasuma Line to Karasuma Oike. At Karasuma Oike change to the Tozai Line. Get off at Nijyo-mae.

Thank you.

You're welcome.

Take the Karasuma Line to Karasuma Oike. At Karasuma Oike change to the Tozai Line. Get off at Nijyo-mae.

Let's Listen

1. Listen to the recording and choose the correct answer. ()

(1) Karasuma Line (2) Tozai Line (3) Nijyo-mae (4) Nijyo-mae

(Unit 3 p.44)

▼ Let's Listen

Let's Listen

1. Listen to the recording and choose the correct answer. ()

(1) Karasuma Line (2) Tozai Line (3) Nijyo-mae (4) Nijyo-mae

2. Listen to the recording and choose the correct answer. ()

(1) Karasuma Line (2) Tozai Line (3) Nijyo-mae (4) Nijyo-mae

(p.45)

▼ Let's Read

Let's Read

The Last Leaf

Johnsy was looking out the window and counting something. "Twelve... Eleven... Ten, nine... Eight, seven." What was she counting? There was only the side wall of the brick house. An old ivy vine grew on the wall. Winter is just around the corner. Most leaves have fallen from the vine. "What is it, dear?" asked Sue. "Six," said Johnsy, in a lower voice. "They're falling faster now. Three days ago, there were almost a hundred. It was difficult to count them, but now it's easy. There goes another one. There are only five now." "Five what, dear?" "Leaves. On the ivy vine. When the last one falls, I must go, too."

Sue told Behrman about Johnsy and the leaves. Old Behrman got angry at such an idea. "What? He cried. 'That's a foolish thing! Do people die because leaves drop off a vine? I've never heard of such a thing.' The next day, only one ivy leaf could be seen. It was still dark green, but at the edges it was turning yellow. It was hanging from the vine on the brick wall. "It is the last one," said Johnsy. "It will fall today, and I will die at the same time." That night, the north wind began to blow. The rain beat against the windows like a storm.

How many leaves could be seen the next day?

(巻末 p.96-99)

- Unit末の**Express Yourself**では、Unitのテーマに沿った短い文章をつくり、発表することを通して、**思考力や表現力**が養えるようにしました。
- Unit3, 6に設定した**Project**では、いくつかのUnitで学んだことを生かして**4技能5領域**を総合的に活用することを通して、**思考力・判断力・表現力**が養えるようにしました。
- 巻末の**Further Study**では、さらに進んで学習したい生徒のために興味深い題材を用意しました。

▼ Express Yourself

Express Yourself

My favorite place is _____ for Thunder Gate.

The large leaves hanging from the gate is _____ reason talk.

Many people visit Aomori to see the gate.

Let's Listen

1. Listen to the recording and choose the correct answer. ()

(1) Karasuma Line (2) Tozai Line (3) Nijyo-mae (4) Nijyo-mae

(Unit 6 p.84)

▼ Project

Project 1

有名人にインタビューしよう

1. Interview a famous person. ()

(1) Karasuma Line (2) Tozai Line (3) Nijyo-mae (4) Nijyo-mae

(p.46-47)

▼ Further Study

Further Study 1

ディスカッションをしよう

Let's talk about school uniforms. Do we need school uniforms? I don't think so. We don't need school uniforms because I don't want to worry about what to wear. I don't think so. We don't need school uniforms because I want to wear my favorite clothes at school. Thank you, Karasu and Arusu. How about you, Muski? I think we need school uniforms because they are economical. I agree with Muski. We don't have to buy many clothes if we have school uniforms. Thank you, everyone.

Let's Listen

1. Listen to the recording and choose the correct answer. ()

(1) Karasuma Line (2) Tozai Line (3) Nijyo-mae (4) Nijyo-mae

(p.92-93)

2

対照表

教育基本法第2条	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。	▶英語の学習を通して、歴史上の偉人などに関する幅広い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培えるようにしました。	p.63～73など
第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。	▶みんなにやさしい社会を目指したユニバーサルデザインについて考える活動などを通して、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、自主及び自律の精神を養えるようにしました。	p.49～59など
第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。	▶原爆について考える活動などを通して、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずる態度を養えるようにしました。	p.33～43など
第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。	▶動物との共存について考える活動などを通して、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養えるようにしました。	p.19～29など
第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。	▶日本と外国との食文化の違いや共通点などを知ることで、我が国と他国の伝統と文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました。	p.7～17など

3

上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

▶▶▶ 特別支援教育・ユニバーサルデザインへの対応

- 特別支援教育の専門家の監修の下、まぎらわしい記号の使い方をしないなど、すべての生徒が支障なく学習できるよう配慮しました。
- 教科書全体を温かみのあるやさしい色使いでシンプルなデザインにし、誰にでも必要な情報が伝わるよう心がけました。これにより、**メディア・ユニバーサル・デザイン協会 (MUD)** による認証を申請しています。



編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-115	中学校	外国語	英語	第3学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
61 啓林館	英語 906	BLUE SKY English Course 3		

1 編修上特に意を用いた点や特色

1 基礎的な知識・技能を確実に習得できるよう, スモールステップによる学習場面を設定する

- 教師にも生徒にも授業の流れがイメージできる紙面構成にしました。
- コミュニケーション活動の基礎となる知識・技能が, 十分親しみながら, 細かい学習の過程を経て, 確実に身に付くよう配慮しました。

Get Ready

具体的な場面を通して, 語句, 表現及び音声に慣れ親しみます。

Practice

絵を使って新出表現を練習することにより, 知識・技能の習熟を図ります。

Use

ペアワークやグループワークなどで, 自分のことを表現することにより, 言語材料の活用・定着を図ります。

2 生徒が臨場感を持ちながら, 主体的に学習を進められるようにする

- 生徒が自身の問題として主体的に学習を進められるよう, 身近な題材や興味深い題材の選定, 場面の設定を考慮しました。
- グローバル化する社会の中で英語話者の広がりや多様性を実感できるように, 様々な国のキャラクターを設定し, 生徒が実際の言語の使用場面を想起しながら臨場感を持って学習が進められるように工夫しました。

Emily Hill (エミリー・ヒル)  アメリカ	Chen Lee (チェン・リー)  シンガポール	Moana Bell (モアナ・ベル)  ニュージーランド	Nakata Sora (中田空)  日本	Sato Aoi (佐藤あおい)  日本
---	--	--	---	---

3 バランスよく, 4技能5領域にわたる コミュニケーション能力の基礎が身に付くようにする

- 聞く, 話す(やり取り), 話す(発表), 読む, 書くの様々な場面において, 生徒が既習の言語材料を活用する機会を設け, 状況に応じて求められる技能を身に付けられるようにしました。
- 目的や場所, 状況などに応じて, 様々な話題に関する情報などを推測しながら理解したり, 表現したり, 伝え合ったりできる力を養えるようにしました。

1 教科書の構成

●6のUnitを中心に、各学期の配分を以下のように設定しています。

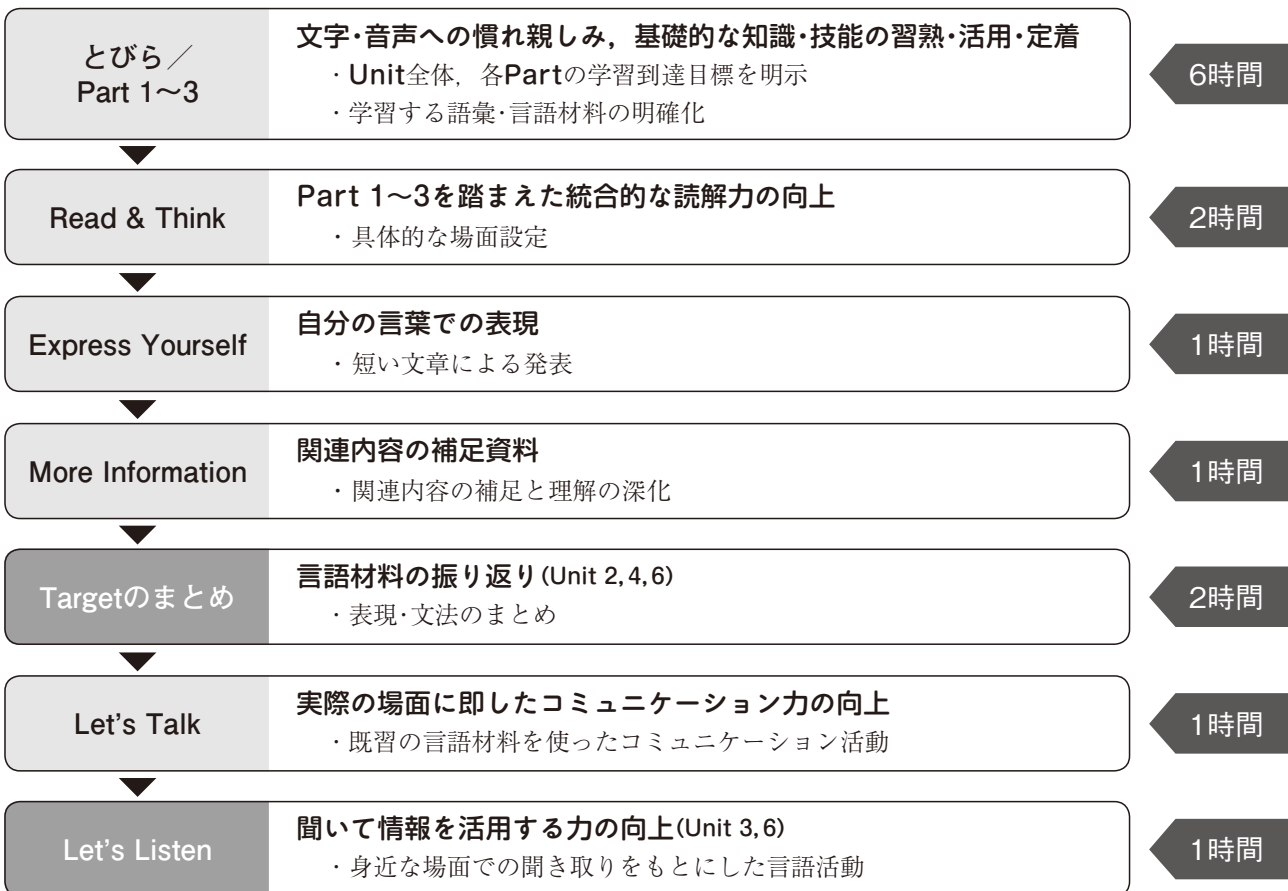
()内は配當時数

1学期 (36)	Unit 1 (10)	Unit 2 (10)	Targetのまとめ ①(2)	Unit 3 (10)	Let's Listen ①(1)	Project ①(3)	
2学期 (38)	Unit 4 (10)	Targetのまとめ ②③(2)	Unit 5 (10)	Unit 6 (10)	Targetのまとめ ④⑤(2)	Let's Listen ②(1)	Project ②(3)
3学期 (14)	Further Study ①(3)	Further Study ②(3)	Let's Read ①(4)	Let's Read ②(4)			

※2学期制では、Targetのまとめ②③までが前期、Unit 5以降が後期となります。

- 各学期の配當時数には余裕を持たせていますので、学級や生徒の実態に応じて柔軟に扱うことができます。
- 学期末にはProjectを設定し、4技能5領域の統合的な活用を図れるようにしています。また、ペアワークやグループワークなどの協働学習を通して、主体的・対話的な学習が進められるようにしています。
- 巻末にはCan-Doリストを掲載し、学習事項の振り返りと自己評価が行えるようにしています。

2 Unitの構成



※TargetのまとめはUnit2, 4, 6、Let's ListenはUnit3, 6に設定しています。

- Unitは、とびら／Part 1～3、Read & Think、Express Yourself、More Information、Targetのまとめ、Let's Talk、Let's Listenで構成しており、各Partには見開き2時間と余裕を持たせて時間配分をしていますので、状況に応じて、繰り返し練習やデジタル教材などを使った追加の活動を行うこともできます。

◆教科書の観点別特色

観点	留意点	該当箇所
教育基本法・ 学習指導要領の 遵守	①教育基本法及び学習指導要領で示された目標を達成するため、次の基本方針の下、編修しました。 ・生徒が主体的に関わりながら学びを進める ・コミュニケーションを図るための基礎的な資質・能力を身に付ける ・知識・技能を活用して、思考力・判断力・表現力を育成する	全般
資質・能力の 育成、 Society5.0で 求められる 課題解決能力の 育成	①【知識・技能】紙面に 新出語 や キーセンテンス を Target として明示して、身に付ける学習内容が一目でわかるようにしました。 ②【知識・技能】細かいステップを踏んだ活動を通じて、 基礎的な知識・技能 が養えるようにしました。 ③【思考力・判断力・表現力】各学期末の Project には、既習の言語材料を使って 場面や状況に応じて考え、判断し、表現する 活動を設定しました。 ④【学びに向かう力】動物との共存やユニバーサルデザインなどに関連する題材などを取り上げて、生徒の 学習意欲 を高め、より 深い学び へと導けるようにしました。	①p.8～9など ②Get Ready →Practice →Use ③p.46～47など ④p.19～29, 49～59など
主体的・対話的で 深い学び アクティブ・ ラーニング	①ペアワークやグループワークなどによる 主体的・対話的な学習 が進められる教材を多く設定しました。 ②音声などを使った様々な活動を通して、 主体的・対話的で深い学び ができるよう配慮しました。 ③Unit3, 6末に設定した Project では、場面や状況を考え自ら判断する問題を扱いました。 ④巻末の Further Study では、あるテーマについて意見を交換したり、自分の体験を書くことを通して、 主体的・対話的で深い学び ができるようにしました。	①全般 ②QRコードなど ③p.46～47, 90～91 ④p.92～95
学びの見通し・ 振り返り	①生徒が見通しを持って学習が進められるように、Unitの最初に Unitの目標 、各Partに Partの目標 を明示しています。 ②複数のUnitの学習を振り返ることができるように、Unit2, 4, 6末に Targetのまとめ を設定しました。 ③1～3年生を通した目標をもって学習したり、振り返って自己評価したりできるように、巻末に Can-Doリスト を掲載しました。	①Unitの目標, Partの目標 ②p.30～31, 60～61, 86～87 ③p.142
内容・配列・分量	①生徒の身近な場面から導入を図るなど、 自然に英語に接する ことができるよう配慮しました。 ② 時間内に授業を終えられる ような題材・分量を設定しました。 ③小学校からの学習がスムーズにつながるように、『Let's Try!』『We Can!』を参考にして言語材料を構成・配列しました。	全般
コミュニケーション 活動	①生徒の身近な題材を使った コミュニケーション活動 を通じて英語の学習ができるように配慮しました。 ②Unit3, 6末に設定した Project では、 4技能5領域を統合する活動 を設定し、コミュニケーション活動を図れるようにしました。	①全般 ②p.46～47, 90～91
4技能5領域 への対応	①「聞くこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「読むこと」「書くこと」の 4技能5領域 の内容を各Unit内で適切に取り上げ、問題の横に、該当する4技能5領域を マークで表示 して、身に付ける知識・技能を明確にしました。	全般
評価への対応	①Unit2, 4, 6末に設定した Targetのまとめ では、キーセンテンスの定着度を評価することができます。 ②巻末の Can-Doリスト では、生徒自身が学習を振り返ることで、自己評価ができるようにしました。	①p.30～31など ②p.142

観点	留意点	該当箇所
他教科との関連	①(国語)「最後の一葉」を扱いました。 ②(社会)歴史的な出来事や人物などを扱いました。 ③(理科)動物との共存について扱いました。 ④(音楽)英語の歌を扱いました。 ⑤(保健体育)第1回近代オリンピックについて扱いました。 ⑥(道徳)原爆について考えることを通して、正義と責任、男女の平等を重んずる態度が育てられるようにしました。	①p.96～99 ②p.63～73など ③p.19～29 ④p.105～107 ⑤p.70, 73 ⑥p.33～43
中高の連携	①巻末に、1～3年の基本本文のまとめ、会話表現のまとめ、英語のつづりと発音、不規則動詞変化表、形容詞・副詞比較変化表、符号の使い方、数の読み方を掲載し、高校への橋渡しができるようにしました。	①p.108～118
カリキュラム・マネジメントへの対応	①各Partは、 Get Ready, Practice, Use という展開を通じて、知識・技能の提示・習熟・活用・定着がスムーズにできるよう配慮しました。 ②年間で45時間の予備時間を設け、学級の実態に応じた指導ができるよう配慮しました。	全般
教師支援	①Unitの各Partに見開きで2時間という余裕を持たせた時間配当をするなど着実に授業が進められるよう配慮しました。 ②音声教材や映像などICTを使った教材を充実させ、授業の中で適切に生かせるよう配慮しました。	全般
特別支援教育・ユニバーサルデザイン・SDGsへの対応	①誰もが読みやすいように文節で改行をしたり、学習のめあてを明記したりするなど、 インクルーシブ教育 に配慮しました。 ②色覚特性や障害のある生徒などにもわかりやすいよう、判別しにくい配色を避けたり、シンプルなイラストを扱ったりするなどの配慮をしました。これにより、 メディア・ユニバーサル・デザイン協会(MUD) による認証を申請しています。 ③ デジタル教科書 や 拡大教科書 を用意し、生徒の様々な学習形態に対応できるように配慮しました。 ④動物との共存を取り上げ、 自然保護 について考えられるようにしました。	①～③全般 ④p.19～29
人権、福祉、国際理解、異文化理解、ジェンダーへの配慮	①みんなにやさしい社会を目指したユニバーサルデザインに関する話題を取り上げ、 人権、福祉、国際理解 について深められるようにしました。 ②教科書には多くの人種・民族の人々を登場させています。 ③女性は赤色・男性は青色といった固定観念で性の区別をしない、男女の社会的役割を平等にするなど、 ジェンダーへの配慮 をしました。	①p.49～59など ②③全般
ICTの活用	①音声や動画などデジタル教材を使って繰り返し学習が有効な箇所には、 QRコード を明示しました。また、QRコード対応機器以外でもデジタル教材を活用できるように、「この教科書の使い方」のページにURLを掲載しました。 ② 音声を用いた教材 を随所に設定し、臨場感を持って 対話的な学習 が進められるようにしました。	全般
家庭学習・自学自習への対応	①Unitの初めには Unitの目標 を、Partの初めには Partの目標 を明示し、生徒自らが 見通しを立てたり、振り返ったり できるようにしました。 ②各Partでは、 Target としてそのPartで学ぶ 語彙や表現 を提示し、生徒が 主体的に学習を進められるように しました。 ③紙面に適宜QRコード・URLを掲載して、 家庭でも音声を使って学習ができるよう 配慮しました。	全般
基礎・基本の定着	① Target としてキーとなる 語彙や表現 を明示し、 知識・技能の習熟・活用・定着 を図りやすくしました。 ②欄外の Words には、特に中学校までで身に付けておきたい CEFR-JのA1レベル の新出語を太字で示しました。 ③Unit3, 6末に設定した Let's Listen では、身近な場面から必要な情報を聞き取り、適切に判断し活用できる力を養えるようにしました。 ④巻末の Can-Doリスト で学習事項を振り返り、基礎・基本の定着を図ることができます。 ⑤生徒が巻末の Word Box などを参考にして行う言語活動を通して、基礎・基本の定着が図れるようにしました。	①各Partの Target ②p.8など ③p.45, 89 ④p.142 ⑤p.119～121

観点	留意点	該当箇所
家庭や地域との連携	①町おこしについて取り上げ、自分たちの地域について考えられるようにしました。	①p.75～85
オールイングリッシュへの配慮	①Classroom Englishを使って授業を進めやすい題材を扱いました。 ②Use, Let's Talkでは、即興的なやり取りを促せる題材を設定しました。 ③QRコードやデジタル教科書などを使って、ネイティブによる英語の音声での指導ができるように配慮しました。	全般
文字・印刷・用紙・製本	①行間にゆとりを持たせ、文章が読みやすくなるように配慮しました。 ②大きな判型(AB判)を採用してイラストや写真を効果的に掲載することで、学習効果が高まるよう配慮しました。 ③針金を使わず堅牢な「あじろ綴じ」製本を採用し、ページを大きく開けるよう配慮しました。 ④書き込みやすく消しやすい軽量で丈夫な用紙を採用しました。 ⑤アレルギーや環境に配慮し、植物油インキ・再生紙を使用しました。	全般

2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数	3学 期制	2学 期制
1. Food Cultures	(1)アイウエ, (2)アイウ, (3)①アイウエオカ, ②アイ	p.7～18	10	1 学期 (36時間)	前期 (48時間)
2. Living Side by Side (Targetのまとめを含む)	(1)アイウエ, (2)アイウ, (3)①アイウエオカ, ②アイ	p.19～32	12		
3. Passing Down Memories (Let's Listenを含む)	(1)アイウエ, (2)アイウ, (3)①アイウエオカ, ②アイ	p.33～45	11		
Project 1 有名人にインタビューしよう	(1)イウエ, (2)アイウ, (3)①アイエオカ, ②アイ	p.46～48	3		
4. Society for All (Targetのまとめを含む)	(1)アイウエ, (2)アイウ, (3)①アイウエオカ, ②アイ	p.49～62	12	2 学期 (38時間)	後期 (40時間)
5. What Can Photos Tell?	(1)アイウエ, (2)アイウ, (3)①アイウエオカ, ②アイ	p.63～74	10		
6. Lively Towns in Japan (Targetのまとめ, Let's Listenを含む)	(1)アイウエ, (2)アイウ, (3)①アイウエオカ, ②アイ	p.75～89	13		
Project 2 日本の伝統行事を紹介しよう	(1)イウエ, (2)アイウ, (3)①アウエカ, ②アイ	p.90～91	3		
Further Study 1 ディスカッションをしよう	(1)イウエ, (2)アイウ, (3)①アウエオカ, ②アイ	p.92～93	3	3 学期 (14時間)	
Further Study 2 中学校生活の思い出を書こう	(1)イウエ, (2)アイウ, (3)①アウエオカ, ②アイ	p.94～95	3		
Let's Read 1 The Last Leaf	(1)アイウエ, (2)ア, (3)①アウ, ②アイ	p.96～99	4		
Let's Read 2 Origami Ambassador	(1)アイウエ, (2)ア, (3)①アウ, ②アイ	p.100～104	4		

年間配当時数 88時間(予備時間52時間)